

今年の県内河川のアユそ上状況は・・・



1 そ上の時期と量

内水試では、大北川、久慈川、那珂川、鬼怒川の4河川で、投網によるアユのそ上調査を行いました。今年は昨年よりもアユのそ上開始が遅れ、3月中旬ころから始まりました。その後もそ上は継続していましたが、河川内のアユそ上群の密度は薄く、例年見られているそ上のピークを確認することはできませんでした。また、そ上期間も普段より長く、6月下旬になってもまだ遡上してくる稚アユが確認されました。そ上期間は長かったもののそ上群の密度が薄かったため、総量的には少ないと考えられます。

なお、近県でも今年のアユは少なめであるとの情報が入っています。

2 そ上魚の大きさ

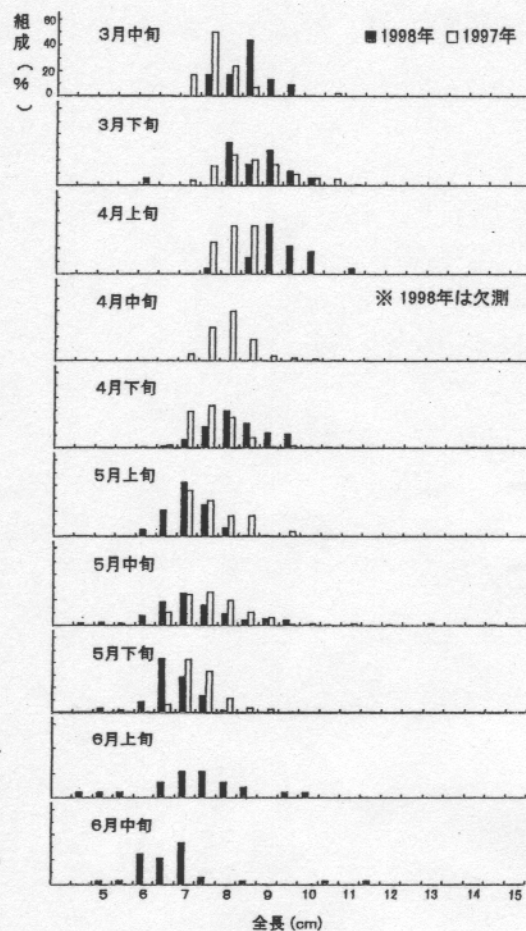
そ上魚の平均体長は、初めは大型で後期になるにつれて次第に小型化していく傾向があります。今年は、3月中旬から4月下旬ころまでは全長で8～9 cm 台で昨年同時期と比べると少し大きめでしたが、5月以降になると昨年よりも小さくなり、5月上・中旬は7 cm 台、5月下旬には6 cm 台となり後期群の特徴である「そ上魚の小型化」が見られました。しかし6月に入ると、4 cm 台の小型魚も混じってはいるもののそ上サイズの中心はまた7 cm 台となりました。

3 環境について

今年の河川環境は、冬場から春先まで降雨が多かったため河川水位も高く、近年問題であったそ上期の渇水により堰が越えられない、魚道に水がないというような状況は見られませんでした。しかしその反面、降雨により河川水温も低く、4月いっぱいくらいまであまりそ上が活発ではありませんでした。ちなみに久慈川では、3月中旬は8℃、3月下旬は10℃、4月上旬は11℃で昨年に比べ5℃～7℃ほど低くなっていました。ただし、大北川の河川水温はここ数年では最も高く推移していました。

海況では、今年は茨城県沿岸の海水温が1月下旬頃から平年より2～3℃ほど低い値で推移し、稚魚時代を海で過ごすアユにとってあまり良い環境ではなかったと思われます。

担当：河川部



久慈川における遡上アユの体長組成(%)

魚病情報 — 中国国内でコイの春ウィルス病 (SVC) が発生

我国に発生例のないコイの春ウィルス病が中国国内生産の錦鯉・金魚で確認されたとの情報が水産庁からありました。本魚病はコイにかかる出血性の急性ウィルス性伝染病で親魚から卵表面にウィルスが付着して仔魚に感染、さらに感染魚から健康魚に感染して蔓延、春に発病、幼魚・成魚を問わずへい死が起こるとされており、我が国に侵入すると養殖ゴイに大きな被害が発生する恐れがあります。このため、中国からのコイ・金魚(種卵、種苗、成魚とも)の導入は本病に感染していないことが証明されているもの以外は避けるようにしてください。

担当：増殖部

ご意見・ご質問をお寄せください。

茨城県内水面水産試験場

電話 0299-55-0324

茨城県内水面水産試験場里美支場

電話 0294-82-2448